

1. 現行学習指導要領の成果と課題

(1) 成果

- ① よりよい人間関係を築く力，社会に参画する態度や自治的能力の育成に極めて重要な役割を果たしてきたこと。
- ② 道徳的実践の重要な学習の場であること。
- ③ 集団への所属感，連帯感を育み，ひいてはそれが学級文化，学校文化の醸成へとつながっていること。

(2) 課題とさらなる期待

- ① 目標が規定されたものの，それぞれの内容や指導（活動）のプロセスについて構造的な整理がされていないこと。
- ② 教育課程全体の中における特別活動の役割，機能という視点を明らかにすること。
- ③ 学級活動の内容項目が多く，時数の確保が難しいこと。

2. 特別活動において育成すべき資質・能力

(1) 特別活動の特質に応じ育まれる「見方・考え方」

① 特別活動の特質

特別活動とは，様々な構成の集団から学校生活を捉え，課題の発見や解決を行い，よりよい集団や学校生活を目指して様々な行われる活動の総体である。その活動の範囲は，学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき，社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。

② 特別活動における「見方・考え方」

集団や社会の形成者という視点から問題を見出し，よりよい人間関係の形成，よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現の視点からその問題を解決するために考えることである。

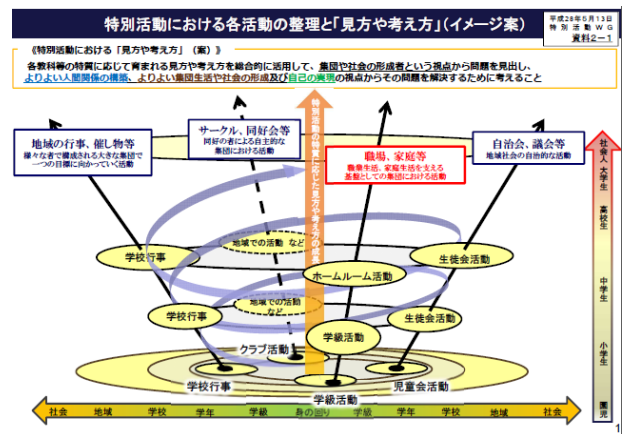


図 1 特別活動における「見方・考え方」

(2) 資質能力を育む視点

① これまでの目標を整理し，指導するうえで重要な視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つに整理した。

- ・ **人間関係形成** 集団の中で，よりよい人間関係を自主的，実践的に形成する力。
- ・ **社会参画** よりよい学級・学校生活づくりなど，集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
- ・ **自己実現** 集団の中で，自己の生活の課題を発見し，よりよく改善する力や自己の管理を深め，自己のよさや可能性を生かす力。自己の在り方・生き方を考え設計する力。

(3) 小学校，中学校，高等学校を通じて育成すべき資質・能力

特別活動において育成すべき資質・能力について（3つの視点を手掛かりとして整理）

